

書名	著者	出版社	出版年	請求記号	内容
105にんの すてきなしごと	カーラ・カスキン／文 マーク・シーモント／絵 なかがわ ちひろ／訳	あすなろ書房	2012年	Iホ/ツ	きんようびのゆうがたに、105にんのひとたちが、しごとにでかけるよういをはじめます。シャワーをあびるひやおふろにつかるひと。みたくのようすは105にんみんないろいろ。そんなひとたちがあつまると、あるしごとがはじまって、うっとりするほどすてきなよるになりますよ。みんなでするのはどんなしごとかな。
アナンシと 6びきのむすこ	ジェラルド・マクダーモット／さく しろた のぼる／やく	ほるぷ出版	1980年	Iホ/マ	これは、アフリカのガーナというくににつたわる、クモの「アナンシ」のおはなしです。あるとき、アナンシはたびのとちゅうで、あぶないめにあってしまいます。そのとき、6びきのむすこたちが、それぞれのとくぎでアナンシをたすけます。いったいどうやってたすけたのでしょうか。むすこたちのとくぎがなになのか、きになりませんか。
てぶくろ (ウクライナ民話)	エウゲーニー・M・ラチョフ／え うちだ りさこ／やく	福音館書店	1999年	Iホ/ラ	おじいさんがもりをあるいていました。あるいているうちに、おじいさんはてぶくろをかたほうおとして、そのままいってしまいました。すると、ねずみがやってきて、てぶくろのなかにもぐりこみます。つぎにかえるがやってきて、かえるもてぶくろのなかに入れてもらいます。もりのなかまたちがつぎつぎとてぶくろのなかにはいっていきます。
エンザロ村のかまど	さくま ゆみこ／文 沢田 としき／絵	福音館書店	2009年	382	ケニアの首都ナイロビから車で半日のところに、エンザロ村という水道もガスも電気もない村があります。でも、その村には、日本人が教えた「ジコ」というかまどがあります。たき口が3つあり、とても便利です。エンザロ村の人たちは、まわりの村にもジコの作り方を伝え、となりの国にも広まっているということです。
ミツバチ 花にあつまる昆虫 (科学のアルバム・ かがやくいのち4)	藤丸 篤夫／著	あかね書房	2010年	486.7	ミツバチは群れでくらすハチです。たくさんのミツバチがさまざまな仕事をしています。みつを集める、巣のそうじ、幼虫の世話。ちからをあわせるミツバチのようすがたくさんの写真でかいせつされています。それにしても、ミツバチは花のみつをどのようにして巣までこぶのでしょうか。とろりとおいしいハチミツのひみつもわかるかも。
どこいくの？	高田 勝／文 叶内 拓哉／写真	福音館書店	1999年	488	渡り鳥をしてみてください。日本から遠い外国まで飛んでいく鳥たちです。みなさんがよく知っている鳥では、ツバメがこれにあたります。ほかには、どんな鳥がいるのでしょうか。そして、彼らはなぜ、遠いところまで飛んでいくのでしょうか。色々な渡り鳥の秘密がわかる本です。写真もたくさんっているので、楽しめますよ。

ばばあちゃんのおこのみやき	さとう わきこ／作 佐々木 志乃／協力	福音館書店	2009年	596	にわでとれたきゃべつをきざんで、きじをつくって、みんなでこのみやきをやこう。ホットプレートをみんなでかこんでやいたらたのしいよ。ばばあちゃんのおこのみやきはおおきいなあ。だけど、みんなでたべるとたりないね。じゃあ、つぎはわたしのうちのおこのみやきをつくるわ。みんなのおうちのおこのみやきはどんなのかな。
いやいやえん	中川 李枝子／さく 大村 百合子／え	福音館書店	1962年	9-0/カ	しげるはかおをあらっていません。ようふくもきていません。あさごはんもたべていません。なぜってね、それは、おとうさんのおみやげの赤いじどうしゃがきにいらぬのです。おかあさんはあばれているしげるを『いやいやえん』につれていきます。しげるの「いやだい、いやだい」はなおるのかな？ほかのおはなしもよんでね。
ピーター・パン	J・M・バリ／作 厨川 圭子／訳	岩波書店	2000年	9-0/川	永遠の少年ピーター・パンは、ネバーランドで妖精たちといっしょに暮らしています。ある夜、ピーターはウェンディーたちと出会います。妖精の粉を吹きつけられると、ウェンディーたちは空をとべるようになりました。ピーターがおとぎの国へ誘います。人魚や海賊たちが住んでいるところです。さあ、みんなで出発です。
のっぽのサラ	パトリシア・マクラクラン／作 金原 瑞人／訳 中村 悦子／絵	福武書店	1987年	9-0/カ	わたしのうちにママはいません。おとうとを産んだ次の日に死んでしまったからです。そんなある日、パパのおくさんになるかもしれない女の子がやってきました。名前はサラです。サラはのっぽです。サラは海の色やドライフラワーの作り方など、いろいろなことをわたしたちにおしえてくれました。 家族になっていくという優しい、おはなしです。
ムーミン谷の仲間たち	トーベ・ヤンソン／作・絵 山室 静／訳	講談社	2013年	9-0/ヤ	「クリスマスがくるじゃないか！」と、ヘルムがムーミン一家をおこしにきました。ムーミン一家は毎年、冬眠していて、クリスマスをどう過ごすのか知りません。ヘルムのおばさんに言われて、ムーミンママはごちそうを作り、ムーミンパパはもみの木を取りにいります。でも、ムーミンたちはもみの木に何をかざるのかわかりません。
やかまし村の子どもたち	アストリッド・リンドグレーン／作 大塚 勇三／訳	岩波書店	1965年	9-0/リ	わたしの名はリーサ。この村にはね、家は三軒しかなく子どもは六人だけです。七歳のお誕生日のプレゼントにじぶんの部屋をもらったの。となりの家の女の子たちと窓から手紙のやりとりをしたり、男の子たちと秘密の小屋であそんだりして、みんなとってもなかよしです。毎日いろいろなことがあったのしいからのぞいてみてね。